



問 「肥満の漢方治療とはどのようなものですか？」⑨

答 肥満の漢方治療について、お話を続けます。今回から、表の「気逆・気鬱を伴う場合」に入り、その一番目、柴胡加龍骨牡蠣湯についてお話しします。

柴胡加龍骨牡蠣湯は、漢方の重要な古典である「傷寒論」に登場します。構成生薬は、柴胡、半夏、茯苓、桂枝、黄芩、大棗、生姜、人参、龍骨、牡蠣、大黄です。

「胸がふさがって、いっぱいになって、落ち着かず、ちよつとしたことにも驚くようになって、尿がすつきりとならず、ぶつぶつとうわ言を言って、体中が重くなり、寝返りをうつのも大儀なときには、柴胡加龍骨牡蠣湯が有効である」と傷寒論の中で紹介されています。

図1は、江戸時代に出版された「腹證奇覽翼」に掲載されている腹証図です。左右の胸とおなかの境目、胸の中央、上腹部の中央に所見があります。上腹部の中央の所見で、白く丸くぬけて見えるのは、「動悸」を表しています。

図2は、私の漢方の師匠が描かれた柴胡加龍骨牡蠣湯の腹証図です。分かりにくいかもしれませんが、図1と同様に、白く丸くぬけて見えるのは、「動悸」を表しています。また、胸の中央部が「熱」をもっています。

柴胡加龍骨牡蠣湯の腹証図です。分かりにくいかもしれませんが、図1と同様に、白く丸くぬけて見えるのは、「動悸」を表しています。また、胸の中央部が「熱」をもっています。

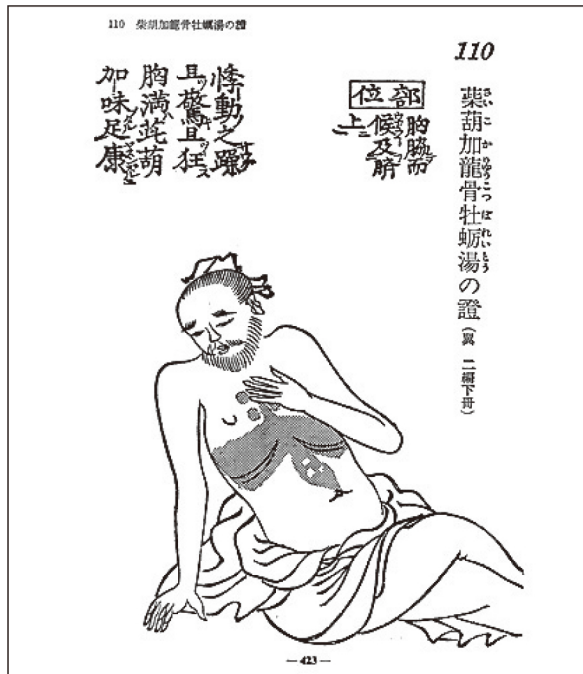


図1

肥満の頻用処方

<p>固太リタイプ</p> <p>ぼうふうつうしょうさん だいさい こうとう 防風通聖散、大柴胡湯、 だいじょうきとう 大承気湯</p>	<p>瘀血を伴う場合</p> <p>とうかくじょうきとう けいし ぶくりょうがん 桃核承気湯、桂枝茯苓丸</p>
<p>水太リタイプ</p> <p>ぼうい おうぎとう えっぴ かじゆつとう 防己黄耆湯、越婢加朮湯、 く みびんろうとう 九味檳榔湯</p>	<p>気逆・気鬱を伴う場合</p> <p>さい こ かりゅうこつぼ れいとう とうかくじょうきとう 柴胡加龍骨牡蠣湯、桃核承気湯、 か みしょうようさん よくかんざん 加味逍遙散、抑肝散、 はん げ こうぼくとう 半夏厚朴湯</p>

(日本東洋医学会、「漢方医学テキスト」)

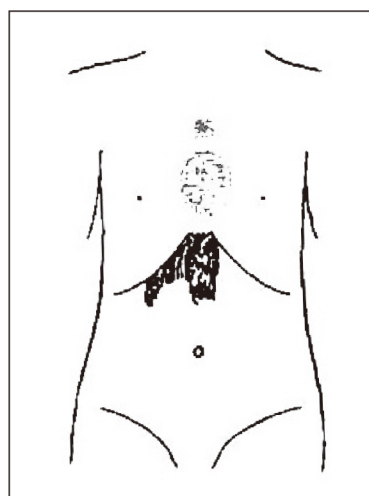


図2

皆さまから漢方に関する質問を募集しています。はがきまたは電子メールで住所、氏名（ペンネーム）、電話番号、年齢を添えて、最終ページに記載の住所またはEメール:information@ideshita-clinic.jpのいでしたクリニックとわえもあ編集係まで送付ください。